

ふるさとファイル

展示コーナーだより

第62号

平成27年4月

生涯学習課文化財係

展示期間 平成27年4月2日(木)
～6月30日(火)

※図書館休館日を除く

※期間中、一部、展示内容が変わります

むらの物産～奥海印寺村～

市域の村々は、時として干ばつや洪水にあうことがあったものの、その多くが米作のあいまに商品作物の栽培や商売にも携わることのできる豊かな農村でした。江戸時代半ば以降には、米麦のほか野菜や菜種、筍など、村ごとに様々な物産がありました。

今回は、江戸時代の奥海印寺村を例に、村の物産について関係資料をもとに紹介いたします。

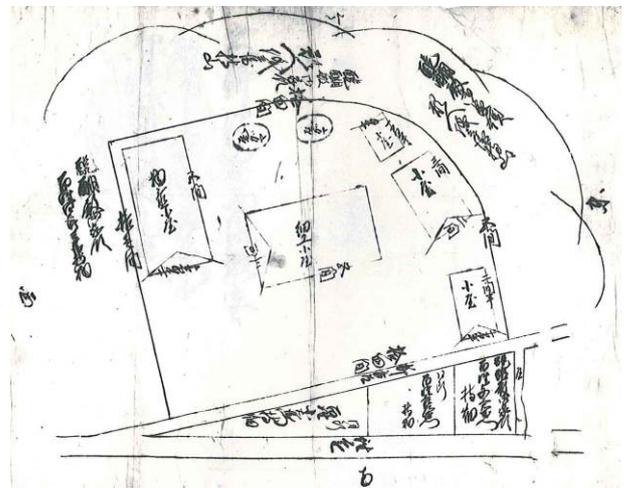


瓦

奥海印寺村には、儀兵衛という瓦師がいました。当時、京都の瓦職人は、「御用瓦師」という同業組合を結成し、仕事場所を分担し、二条城の修復や御所内の御用を勤めるとともに、瓦の焼成・販売・修理を行っていました。

儀兵衛は、その「御用瓦師」の一人で、主に乙訓地域の北部を担当していました。寛政3年(1791)に大風で大破した土蔵の瓦を修繕するため、上里村(京都市西京区)まで出向いたことや、文政11年(1828)の阿弥陀寺(下海印寺)再建の際に瓦を納品していたことが、残された古文書からわかっています。また、近年行われた発掘調査で、乙訓寺及びその周辺、摂関家の一つ二条家邸宅跡(現同志社女子大学今出川キャンパス)から、「奥海(印)寺院 儀兵衛」と刻印された瓦が出土しています。これらのことから、儀兵衛が乙訓地域だけでなく京都市内へも瓦の販売、瓦葺きに出向っていたことがわかります。

その後、儀兵衛は、多額の借財を背負い、瓦師株・「儀兵衛」の名前・職場建物一式・諸道具を手放しています。弘化3年(1846)に瓦師株を取得した奥海印寺村の長兵衛は、太鼓山の傍らに瓦の仕事場を新たに作り営業を始めました。長兵衛は、太鼓山に瓦職場を構えるにあたり、近在の七ツ池の土を取ったりして、用水の差し障りにならないことを開田村に誓約しています。



「瓦職場見取図」(年未詳、個人蔵)

作事小屋や竈などの配置を描いています。道路の位置などから、場所は太鼓山付近と思われます。



乙訓寺及びその周辺から見つかった

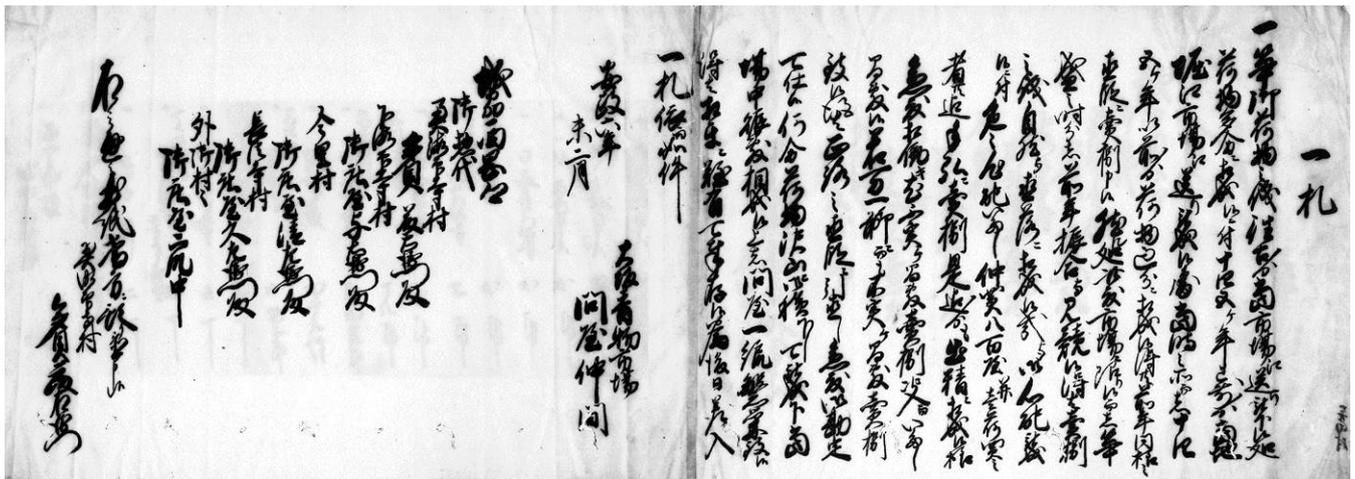
「奥海(印)寺院 儀兵衛」刻印瓦

竹と筍

乙訓地域は、古くから竹が生い茂る地として「枕草子」や和歌にも登場し、その名が聞こえていました。17世紀後半に制作された「洛外図」には周囲を竹藪で囲われた村々の姿が描かれています。竹は、竹籠をはじめとした日用品の材料であると同時に重要な建築資材でもありました。そのため、京都に近く、竹の産地でもあった乙訓地域の村々は、毎年、定められた規格の竹を上納することが義務付けられていました。奥海印寺村でも、毎年、竹を二条城に納めるよう命じられています。

孟宗竹の伝来については、^{おうぼくさん}黄檗山の僧が中国に遊学した際に孟宗竹を持ち帰り、奥海印寺村の寂照院大見坊に移植したのが始まりともいわれています。乙訓地域で孟宗竹の栽培が盛んになるのは天保年間(1830年~1844年)のことです。孟宗竹は、米作より高収益であったため、人々は競って山林を開き、孟宗竹の畑を広げていきました。

収穫された筍は、荷車で京都の市中に運ぶか、泥川浜(大山崎町円明寺)から淀川を船で下り、大坂の天満市場(大阪市北区)や木津市場(大阪市浪速区)へ送られました。安政6年(1859)、大坂^{あんせい}青物市場の問屋仲間が奥海印寺村を含む西岡郷^{にしのおか}の村々に筍の出荷量を増やすよう依頼していることから、幕末には乙訓の筍の名が京都や大坂に知れわたっていたことがうかがえます。



「筍出荷依頼状」(安政6年(1859)、開田区有文書)

大坂堀江市場のみの出荷では最盛期には値崩れも懸念され、仲買の八百屋や一荷買いの者まで手広く販売するため出荷を増やしてくれるように依頼しています。

いしばい 石灰

奥海印寺村には、「奥山」と呼ばれる長法寺村との共有山がありました。^{えんぼう}延宝7年(1679)の検地の際に、地面の南方の8割は奥海印寺村、北方の2割は長法寺村とされ、幕府へ納める年貢や松木雑木の伐採、果実などの収穫も同じ割合を守って行われていました。

この山では石灰石が採れ、奥海印寺村内には「石灰焼」を生業とする者もいました。村外の者も奥海印寺村・長法寺村へ使用料を払い、石灰の製造を行っていたようで、^{きょうわ}享和2年(1802)には大坂の石灰屋が一籠につき月30匁^{かまもんめ}を支払い、奥山内で「石灰焼」を行っています。また、^{あんせい}安政3年(1856)には、栗生村の村人が、年に金1両を支払う代わりに奥山字亀川で石灰石を採取することが許可されています。※石灰は、原石を高温で焼き、粉末にしたもので、主に建築材料として使用